哲学委員会哲学・倫理・宗教教育分科会（第 25 期・第 2 回）議事要旨

日　時　　令和 3 年 1 月 5 日（火）20 時 00 分～21 時 30 分
会　場　　オンライン（Zoom ミーティング）

出席者：中村征樹（委員長）、一ノ瀬正樹、上原麻有子、香川知晶、木村勝彦、木村敏明、河野哲也、小島優子、下田正弘、土井健司、野家啓一、藤原聖子、八尾史、八木久美子、奥田太郎（幹事）

審議事項
１．前回議事録の確認
関連資料が提示され、前回議事録が確認された。

２．前期報告「道徳科において「考え、議論する」教育を推進するために」について
第 24 期の取り組みを通じて 2020 年 6 月 9 日に公表された報告「道徳科において「考え、議論する」教育を推進するために」の内容を踏まえ、報告書を通じて見えてきた課題について意見交換がなされ、様々な要点について検討された。話題となった主要な要点は以下の通り。

① 報告書の名宛人について：日本学術会議は政策提言のための組織であり、行政や教育委員会が上記報告書の第一の名宛人である。
② 新たな名宛人としての教科書作成者や教育現場について：道徳教育の教科書を作成している人たちからヒアリングを行う必要があるかもしれない。既存の道徳教科書の批判的考察もすべき。
③ 目を向けるトピックについて：教育現場のグローバル化のなかでの宗教と教育の問題や、コロナ禍での人権侵害にかかわる問題への対応など、現代的状況のなかでの道徳教育に関連した検討と発信も必要であろう。学校教育現場の外に目を向ける必要もある。提言「高等学校新設科目「公共」にむけて―政治学からの提言―」（2017 年 2 月 3 日）のフォローアップなど、「公共」科目との接続についても検討する必要がある。多様性の現代的状況についても検討することが必要。

３．今期の審議検討事項について
① 新たなアウトプットについて：道徳教育に関する副読本や副教材などの形で、現場の先生たちが参照できる良質の素材を提供するのも有意義で

あろう。

② 活動のあり方について：活動費用が乏しいことはすぐには解決されないので、工夫しながら進める他はない。今期は、提言の作成にとどまらず、現場との連絡・連携・協力を通じて自分たちでモデルを構築していくのもよい。海外の取り組みについての知見を学ぶ機会もほしい。

③ 今後の予定について：年間計画を立て、日程とゲストの調整を早めに進める必要がある。教科書検定官など道徳教育に行政の立場から関与している人をゲストに招くことも検討したい。次回日程はメーリングリストを通じて、追って調整することとなった。